

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日



目次

ミッションステートメント等	P 3
2022年度 総括	P 4
NPO 等団体活動支援事業	P 6
情報発信・ネット環境等支援事業	P 10
継続型フードバンク事業・ブックパントリー事業	P 13
多文化共生事業	P 16
防災支援・避難所設営（運営）	P 30
コロナ対策給付金関連	P 33
中期ビジョンの策定	P 34
NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要	P 35

〇ミッションステートメント（私たちの使命）

～見逃されてきた課題に向き合い、共に安心と未来を創造する～

- ①<中間組織としての役割> 京都北部地域における革新的な中間組織として、行政や他の先進的な中間組織等と連携・協働しながら、京都北部の社会的な課題を解決していくことを目指す
- ②<まちづくり推進における役割> 人と人が信頼でつながるネットワークを構築することにより、丹波・丹後地域のすべての住民がそれぞれの能力に応じ行う地域のための様々な活動を支援するとともに、地域の見逃されてきた課題に向き合うことで誰もが暮らしやすいまちをつくる

〇ビジョン（実現したい社会）

すべての人にとっての「暮らしたいまち」の実現

〇コアコンピタンス（私たちの強み）

- ①多様な人材と繋がり
- ②情報発信力（IT）

〇クレド（行動指針）

- ①他利の精神
- ②想像力
- ③変革

〇スローガン

人×人ネットワーク

「個」を集結 変革力 変化への適応

クリエイティブ脳が変革をもたらす

2022年度 総括

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン(収益事業)などを軸に、人と人、団体と団体(NPO、地域、企業、行政、大学など)のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動を始めてから今年度で12年を迎えました。

しかし、2020年度からはコロナに翻弄され、これまで当たり前に行ってきた交流等の事業について、人数制限を設け、あるいはzoom等オンラインを活用するなどして継続してきましたが、改めて対面で話し合い、交流することの大切さを思い知った3年間でした。また、スタッフや協力者、協働先の担当者の体調不良が多くなり、どのような状況においても事業を継続する体制づくりの必要性を感じた1年でもありました。



今年度の概要

コロナへの対応が少しずつ変化していく中で、オンラインの良さを残しつつも対面だからこそ出来ること、効果が見直され始め、新たな交流等のあり方を模索していく一年になりました。昨年度のコロナ禍での実施事業を振り返りながら、新たに生まれた課題に向き合い、新たなチャレンジを行う年だったように思います。これまで行ってきた外国人に対する支援については、幸い3年を通して助成金を受けることができ、「多文化交流・多世代交流」の場として、交流の場を創出することで効果が得られる支援と、出向いて孤立を防ぎ、傾聴の中で課題を聴き出す支援の2つに分けて、外国人だけでなく住民やひとり親世帯など多様な人たちに向けた事業として実施しました。継続型のフードバンク事業については、量から質(美味しさ・栄養等)への転換と新たにブックパントリーをいう中高大学生向けの参考書等支援を実施するなど、事業自体を見直しながら“当たり前で生きることを楽しみ、より豊かな未来が開けるような取り組み”になるよう工夫しました。また、HPに掲載することで寄附も少しずつ増加し、利用したい旨の問い合わせもフォームを通じて行えるよう、利用者や寄付者が少しでも活用しやすいものに改善しました。これらの取り組みによって外国人や外国にルーツを持つ子どものいる家庭、シングルマザー・シングルファーザー等の家庭、独居の高齢者などに定期的に配布するなかで、専門的知識を必要とする様々な支援に繋ぐことが出来るようになりました。一方でより専門性の高い事案に直面することも多くなり、スタッフの能力の向上と専門家との連携という大きな課題も見えてきました。

事業の遂行に当たっては、住民や外国人の支援者にボランティアやアルバイトとして参加いただけたほか、また、福知山社会福祉協議会などに交流の場やフードバンクなどご協力いただくことができ、人と繋がる大きな一歩を踏み出せたのではないかと考えています。さらに、農水省や大阪出入国在留管理局とも一部連携することが出来、今後の展開を上手く図っていきたいと考えています。



今後の活動

次年度においては、幸いにも福知山市との協働事業(委託事業)が採択され、行政との連携の第一歩をようやく踏み出すことができることになり、これを形だけに終わらせないよう、未来を見据えた連携事業

に育てていきたいと考えています。また、地域をデザインする事業（情報発信支援）や社会的要因により困難を抱える人々に対する支援などについても、“コロナが継続する社会”を意識した事業継続のあり方を考えながら、増加する外国人の支援や高齢者の介護等の問題、子どもの貧困問題、障害のある人の環境整備などを地域の課題としてとらえ、地域を中心に行政や大学、NPO、企業がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって共に支えあう地域づくりを目指していけるような支援が出来ればと考えています。

また、地域の新たな課題である、情報弱者・IT弱者への支援の一環として、zoom 講座やパソコンを使用するの申請が多くなった各種給付金の申請援助などを高齢者や外国人などに対して実施しており、今後もさらに支援体制を整えていきたいと思っています。このように、どのような分野においても、私たちNPOは「出来ない理由ではなく、どう変われば出来るのか」を考えられる組織でありたいと思っています。

最後に、次年度においては、策定中の中期計画に従い、組織基盤強化をさらに強化して、様々な組織・人と連携しながら目的・目標に向かって努力していきたいと思っています。

財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。ここ数年は人件費の出る助成事業が増えては来ましたが、その分そのような事業に応募が集中し、採択が難しいことや、法定福利費を含めた事務所の維持費等の間接経費に対する予算の確保はさらに難しく、事業を継続するためには収益事業をおこなわざるを得ず、本来のミッションとのバランスをいかにとっていくかについても考えざるを得ません。

さらに、小さなしかも指定管理を持たない中間支援のNPOでは、行政からの委託事業や補助金などは難しく、ともすれば行政と競合してしまうこともある中で、民間の助成を受けられるだけの力をつけること、さらには他団体にも助成金情報を流すだけでなく、提案できるような力をつけることが重要だと思っています。幸い、次年度からは市の委託事業を受けることが決まりました。

また、クラウドファンディングなどの新しい資金調達も考えていく必要があると思っています。

雇用を継続しながらNPOを運営することは確かにとても難しいことですが、その中で生まれる人との出会いがきっかけとなり、地域に新しい風を吹かせることが出来るという確かな何かが見えてきているように思います。

今年度においても、近畿労働金庫様の笑顔プラスの寄付先団体を継続していただき、ご協力を得ながら事業を進めることが出来ましたこと、そして社会貢献預金（笑顔プラス）の預金者の皆さまの温かいご支援に感謝し、地域のために何が出来るか、何が必要かを感じながらいっそう活動を進めていきたいと思っています。



NPO 等団体活動支援事業

NPO等支援（NPO 法人、自治会、社会福祉法人等）



組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

<概要>

・NPO 等活動団体及び企業、個人事業主等に対する支援事業（204,620 円）

○個人事業主支援（外国人）

外国人の事業継続への支援（依頼文の日本語への翻訳など 無償）

○法人の手続き等支援

①人を雇用する場合の基本的注意事項、社会保険、労働保険等手続き（無償）

②会計・法人税申請等支援（120,000 円）

○IT 関係の相談・支援

①パソコン環境の整備（無償）

②zoom の設定等支援（2 件 60,000 円）

○講師（福知山公立大学）

NPO について（15,000 円）



○人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

内容：フードバンクや外国人支援などの事業を通して、福知山市、福知山社会福祉協議会、YWCA、日本防災士会、大阪出入国在留管理局など多様な主体と互いに情報共有、連携していける仕組みづくり、人と人をつなぎ新たな支援の創出などを行っている。

○その他

仲介手数料（1,620 円）

貸会場（8,000 円）

・災害時連携NPO等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨

近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立及び充実を図る。

活動内容

2022年度も京都府では避難を必要とするような災害は発生しなかった。今年度も引き続きコロナ禍であるため、幹事会等はリアルとオンラインでのハイブリッド開催となったが、10月16日には総会とシンポジウム「京都府南部地域豪雨災害からの10年~その当時を振り返って~」を宇治産業振興センター多目的ホールにて、リアルとオンラインのハイブリッド方式で実施した。また2023年2月18日土曜日にはオンラインシンポジウム「いま、『避難』を考える ~避難現場での支援と助け合いのあり方~」の講演とパネルディスカッションを京都市総合企画局 国際交流・共生推進室 共生推進担当課長 大久保 将史さんを招いて開催した。



つながるきょうと防災ネットワークの構築に関する連携協定締結式

3月10日（金）災害時連携NPO等ネットワークと損害保険ジャパン株式会社、きょうとNPOセンター、京都丹波・丹後ネットワークによる「つながるきょうと防災ネットワーク構築に関する連携協定締結式」が開催された。

2023年(令和5年) 3月11日 土曜日 京都新聞 朝刊



課題と成果

2月18日のシンポジウムでも議題にされた「避難現場での支援と助け合いのあり方」などはこれから起こるであろう様々な災害を考えた時に大きな課題となってくる。平常時に考えておくことができる課題でもあるので、当NPOとしても「ダイバーシティを意識した避難所設営・運営」をシミュレーションできるような取り組みを、災害ネットを始め、行政、大学、企業などとも連携して進めていきたい。

・その他支援事業

○Web ページ及び Facebook ページによる情報発信

Web ページ及び Facebook ページ共に、外国語による発信を実施（試行段階）

- HP の内容：新事業や事業報告、事業計画などの基本事項、コロナ関連情報、NPO 関連の法改正等を掲載

☆HP アドレス：<http://www.kyoto-tantan.net/>

- Facebook ページの内容：NPO 主催のイベント案内と報告、支援 NPO の情報など日々の話題を中心に情報発信

新型コロナウイルス禍に対しては、NPO 等に対する給付金の案内なども掲載。

また、外国人にも情報を提供。（現在英語による情報発信に取り組んでいる）

☆FB ページアドレス：<https://www.facebook.com/kyototantan>



支援事業全体を通して

事業成果：

- 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、ここ数年そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共に企画内容の提案やネットワークづくり、コーディネーターなどハブ的機能を主体としたものに変わってきたが、情報発信支援や会計実務についてはNPO 法改正後、未だに法人としての責務（所轄庁への報告・法務局への登記・納税・社会保険加入等）を果た

していない団体も多くみられる。今後民間の助成金を得るうえでも事業を継続して行ううえでも、NPOとして信用を得るための組織診断・組織改革は必須となり、支援事業の重要性は増してきているように思う。

- ・ また、法改正などに伴う実務を理解されていない NPO 法人も少なくないため、HP などを通して改正のポイントや実務などを掲載するとともに、相談があれば応じるようにしている。
- ・ 引き続き、府やパートナーシップセンターなど行政機関が行う支援と役割を明確に分け、地域で重要な活動をされている NPO（自治会なども含む）や社会福祉法人などが十分力を発揮できるよう、受益者である市民を意識した支援を行っていききたい。

反省点、改善可能な点、課題など：

- ・ ここ数年同様の課題ではあるが、NPO 等支援予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効性あるものにできるかが大きな課題だと考えている。その中で、NPO などの支援については特に情報発信、助成金・給付金申請、分析、コーディネートに力を注ぎ、さらには非営利組織の評価を意識した事業展開を考えていく必要がある。それでも見過ごされている課題に対しては、京都北部（とりわけ福知山）の未来にとって必要な事業を自ら作り出すことも考えていかねばならない。その中で、同じ地域の活動団体、NPO 法人はもちろんのこと、きょうと NPO センターなどの協力も得ながら、NPO 同士の連携や NPO 法人のさらなるレベルアップを目指したい。
- ・ また、新型コロナウイルスに対する対策（補助金・助成金・給付金申請やBCPの策定など）について、多言語化等のきめ細やかな対応が出来るよう体制を整えたい。

情報発信・ネット環境等支援事業

収益事業

収入：626,108 円

1 事業の趣旨・特徴

<事業への想い>

地域（企業）情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

<事業背景>

【京都北部の課題と事業の背景】

・京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されていない、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPO にあってはHPなどの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしているも、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などのNPOについては、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

さらに今年度においてはコロナの影響からzoomを活用する等の場面が増加しているが、設定の方法や使い方などを知らない組織や個人が多く、状況に応じた支援を実施することが必要である。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

【特徴】

HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につなげるよう、①コンテンツの内容（何を誰に何のために発信したいのかなど） ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFBページ、ロゴ等を作成

【年度実績】

- OHP 作成・サポート・保守… 5 団体 (135,200 円)
 - OHP・フェイスブックページ更新指導・補助… 2 件 (無償)
 - チラシ・パンフ作成… 1 団体 (10,000 円)
 - 名刺・封筒 (年間サポート含む) …1 企業 124,828 円 1 事業主 (2,000 円)
 - 記念品制作 (マグカップ) …1 企業 (54,000 円)
 - Wi-Fi 環境整備…1 企業 (300,000 円)
 - 絵葉書販売…綾部商工会議所 (80 円)
- 合計 626,108 円

	
<p>Wi-Fi 環境整備</p>	<p>マグカップ</p>
	
<p>ふくちやまCAP ちらし</p>	<p>絵葉書</p>

3 事業体制

運営スタッフ (常勤) …2 名

I T スタッフ (非常勤) …1 名

4 事業の成果と課題

今年度は新規のホームページ作製は無かったが、既存のホームページ更新作業などの支援を行ってきた。またホームページに対する書き換え被害にもあり、今後のセキュリティに関しても対応していく必要がある。

コロナ禍での情報発信としてZOOMとY o u T u b eによる中継やアーカイブなど新たな情報発信方法も求められてきており、情報発信のあり方が変わってきている事にも対応していきたい。

継続型フードパントリー・ブックパントリー事業

～制度の狭間で生きる人へのサポート～

貧困世帯サポート事業・多文化共生事業関連

事業名：①フードパントリー活用による高齢者等生活困難者の見守り・傾聴（赤い羽根社協）

②子どものためのブックパントリー及び絵本のある場づくり（WAM 助成子供の未来応援助成）

③ブックサンタ事業（NPO法人チャリティ・サンタ様との協働事業）

④社会的要因で困難さを抱える子どもたちと保護者へのサポート事業（ドコモ市民活動団体助成 前年度からの継続）

受託期間：①～2023年3月 ②2022年4月～2023年3月 ③今年度については2022年12月と2023年3月 ④2021年9月～2022年8月

助成金額：①50,000円 ②総額1,000,000円のうち一部 ③チャリティ・サンタ様をとおしてクリスマス時に絵本等177冊、新学期にモルカー40部等を寄附していただき、ひとり親家庭等に配布

※ 地域の人たちからの食料、絵本等の寄付もあり ④957,540円

1 事業の趣旨

<背景>

コロナ感染の広がりや円安等により物価が上昇し、ひとり親家庭、アルバイトを打ち切られた大学生、感染を恐れ孤立する高齢者や外国人等、社会的弱者がさらに追い詰められている実情がある。また、公的支援の狭間で支援の受けられない家庭が多いことも分かってきた。

また、ひとり親家庭等のなかには子どもたちに好きな本（絵本）を買ってあげられない家庭もあり、自分だけの本を持ったことのない子どもたちがたくさんいることも分かった。

<目的>

①コロナ感染のみならず、災害時や平時においても見守りや傾聴を必要とする高齢者やひとり親家庭、外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）等に定期的に食料を届けると共に、近況等を傾聴し、場合によっては課題を聴きだし、支援を行う。また、一方的な支援にとどまらず、高齢者の知恵やそれぞれの国の知恵等を教えてもらい、互いに協力し合える社会を目指す。

②③コロナ禍で大変な思いをしている子どもたちや、生まれた環境のせいで自分だけの本を持ったことのない子どもたちに笑顔を届ける。

④フードバンクの活用とそこから学習支援や生活課題など様々な支援に繋げる

⑤絵本というツールを使って、発達障害などの課題を抱える子供や親であっても気軽の参加でき、相談等も行いやすい親子の居場所づくり

2 事業の概要等

<事業の内容>

地域の企業や農家、個人などに SNS、HP 等により広く協力を依頼し、米、乾物、野菜などを寄付していただき、必要としている家庭や個人に継続配布し、傾聴等により孤立を防ぐとともに、各家庭、個人が抱える様々な課題解決に繋げる。

生活用品のほか、チャリティ・サンタ様との連携により絵本や児童書なども寄付の対象とする。

さらに、絵本というツールを使って、発達障害などの課題を抱える子供や親であっても気軽の参加でき、相談等も行いやすい親子の居場所づくりを実施する。

対象者は、次のとおり

- 支援を必要とする外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）
- ひとり親家庭、子どもの多い世帯、発達障害などの課題を抱える親子
- 一人暮らしの大学生、困難な状況を抱える高齢者・障害者など

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （非常勤）…8名 （ボランティア）…5名

<連携>

農林水産省近畿農政局、福知山市社会福祉協議会、NPO法人チャリティ・サンタ、母子寡婦福祉会、ふくちやま CAP、D1 カフェなど

4 事業の成果と課題

○寄付していただいた食料等を配布するだけでは、本当に必要としているもの（ニーズ）とにギャップがあることも多く、リクエストに応じた食料や生活用品を配布した。

○市民の方や飲食店、福知山市社会福祉協議会、農事組合法人等から米、パスタ、缶詰、レトルト食品、ラーメン、調味料、野菜等、たくさんのご寄附をいただいた。

○日系ブラジル人、日系ポリビア人、フィリピン等をルーツに持つ子どもがいる家庭、ひとり親家庭、独居の高齢者などに、寄附していただいた米等を配布。（継続配布…12家庭、緊急配布…母子寡婦会を通じて30家庭 ブックサンタの活動として他団体との連携により延べ200人を超える子どもたちに絵本等を配布 交流会等での配布）

○コロナ禍で最近伺えなかった家庭にはこちらから配達し、傾聴と課題を聴き出すことにより信頼関係を築き、今後の支援につなげられた。

○フードバンクの活動については、近畿農政局等からの調査依頼が来るなど、コロナ禍における活動の一つとして注目されていることがうかがえる。

○フードバンク事業の課題としては、今後のコロナや円安等の状況がどのように変化し、それに対応できるだけの供給や支援体制が取れるかどうかということ。多様な課題解決のために、連携先を広げていくこと。

○絵本をツールとした親子の場づくり事業については、想定していた施設が使えなかったことや、スタッフなどの急な入院等によって計画通りいかないことが多かったが、結果的に、課題を抱える親子など少人数による場になり、様々なツールによる、様々な人を対象とした居場所がたくさんあることが重要であると感じた。そのためには、子ども食堂などを実施されている団体等とも話し合う場、協力し合える事項を作っていくことが必要である。

<写真>

		
<p>米は農家さんなどから</p>	<p>カップラーメンは人気</p>	<p>農家さんから里芋の寄附</p>
		
<p>福知山市社協さんから</p>	<p>個人の方から</p>	<p>個人の方から</p>
		
<p>企業から生活用品も</p>	<p>チャリティ・サンタさんとの 連携 クリスマス会にて</p>	<p>チャリティ・サンタさんとの 連携 今年からは中高生も</p>

<寄せられたメッセージ、訴え、エピソード>

<p>先日はたくさんご寄付の品をいただき、ありがとうございます。(^.^) 子どもは、ビックリしてましたが「これも！これも食べる！と大喜びしていました(笑)」おかげさまで、しばらく食事が楽に暮らせます。 今は、色々大変だけど…多くの方に支えて貰っていることをすごく感じます。 少し落ち込んでも、乗り越える力になります♡</p>	<p>小学生と保育園に通う姉妹。下の子どもさんがお腹にいるときにお父様が亡くなられ、お母様はとてもつらかったと思います。でも、お姉ちゃんが妹やお母様をととても気遣ってくれて、妹さんは元気いっぱい。だけど、お姉ちゃんも時には誰かに甘えたいし、自分だけのものが欲しいはず。絵本をととても大切に抱えて、「ありがとう」って伝えてくれた姿に、とても感動しました。</p>	<p>外国をルーツに持つ小学生と中学生の二人の姉妹。見た目や家庭での言葉・文化が友達と違うことで、自分は何者なのか？という思いを持つようになったようです。 二人とも本が大好きで、交流会を開くといつも片隅で本を読んでいる姿を見かけます。 今回のクリスマス会でも、最初はみんなの中には入ろうとしなかったのですが、最後はみんなと椅子取りゲームに参加し、サンタさんから本をプレゼントされ、とても嬉しそうでした。</p>
<p>母子家庭の母親からのメール</p>	<p>エピソード</p>	<p>エピソード</p>



多文化共生事業

事業名：①支援の質を高め、外国にルーツがある人が暮らしやすい地域にするための事業（中央共同募金会助成）

②連携によってきめ細やかな支援と共生を実現するための事業（中央共同募金会助成）

③スポーツ交流（福知山市）

受託期間：①2021年11月～2022年9月（前年度からの継続） ②2021年12月～2022年9月（次年度継続） ③2022年10月

予算額：①1,640,000円 ②2,690,000円 ③

※多文化共生事業は、皆様からのご寄附により、中央共同募金 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成事業の助成を受けて活動しています

1 事業の趣旨

<活動（事業）に取り組む背景>

外国人、外国ルーツの人たちが抱える課題は、コロナ禍と円安の影響等もありより深刻で複雑なものになってきており、今後増加が見込まれる外国ルーツの人々を継続的包括的に支援していくためには、多様な人、組織との連携が必要である。

<活動の目的と課題>

○目的

外国にルーツのある人がそれによって差別を受けることなく、安心して安全に暮らせる地域にすること。他の住民との関わりにおいて、言語や文化等の違いが壁ではなく強みや誇りになり、互いが協力し合えるような地域にしていくこと。多文化共生社会の実現をまちづくりの一環として考え、その実現のための仕組みづくりを行うこと。

コロナ禍において、外国籍、外国ルーツのある人などが孤立することを防ぎ、経済的にも精神的にも困窮することのないよう緊急的な支援を行うこと。

○課題

- ・ コロナ禍における居場所・相談の機会を創る
- ・ 地域で暮らす様々な人たちとの交流の場を創る
- ・ 貧困による教育の遅れ、食・病等の不安、情報、自然災害の際の対応への支援
- ・ 多様な人が支える、多角的・総合的・長期的な支援体制の確立
- ・ 多文化共生社会の実現

2 事業の概要等

<食料等配達・見守り・傾聴>

外国人・外国ルーツの家庭のうち3家庭に食料等を継続支援。その他7家庭に対して緊急支援や本の配布等を実施。

※ 継続型フードパントリー・ブックパントリー事業～制度の狭間で生きる人へのサポート～参照

<交流会>

○つぎの里でBBQ

日時：9月18日（日）

場所：田野つぎの里

参加者数：25名

参加者内訳：

内容：六人部のカフェに併設されているBBQ場を借りて、子どもたちが走り回れる環境の中で、BBQを楽しんだ。

○スポーツ交流

日時：10月1日（日）

場所：桃映地域体育館

参加者数：17名

参加者内訳：

内容：ボッチャ、ミニボーリング、輪投げを各チームに分かれて対戦

○ワールドクリスマス

日時：12月17日（土）

場所：中丹勤労者福祉会館

参加者数：60名程度

参加者内訳：交換留学生3名、市内で暮らす外国人・外国ルーツの人及び家族、ひとり親家庭、英語を習っている子どもたち、その他

内容：

（タイムライン）

- ・ ギター演奏 きよしこの夜
- ・ 子供たちの合唱 We wish a merry christmas
- ・ 留学生たちの好きな食べ物当てクイズ ピクチャナリー
- ・ ビンゴゲーム
- ・ 椅子取りゲーム
- ・ クリスマスパフェ
- ・ サンタさんから子どもたちへの本のプレゼント（チャリティ・サンタさん連携）

○ひな祭り

日時：2月19日（日）

場所：総合福祉会館

参加者数：34名

参加者内訳：交換留学生5名、市内で暮らす外国人・外国ルーツの人及び家族、ひとり親家庭、英語を習っている子どもたち、その他

内容：日本の文化と食の体験…雛人形をみんなで飾り付ける。留学生に着物の体験をしてもらう。手毬寿司を作る。

<デイキャンプ>

日時：8/27（土） 14：00～20：00

場所：旧川合小学校

参加者数：52名（スタッフ含む）うち中学生以下の子供：17名 高校生・大学生：7名

参加者国籍・ルーツ：日本、アメリカ、オーストラリア、ブラジル、フィリピン、インドネシア、ネパール、パキスタン

属性：日本への移住者（夫婦どちらかが外国籍）、外国ルーツの子どもたち、留学生、高校の教師など

概要

外国人、外国ルーツの子どもたちと住民などが一緒にキャンプを行う中で、言葉の壁や文化の壁を乗り越えて交流し、これをきっかけに新たなコミュニティが構築できるような場にする。

交通手段のない人に対してはレンタカーで対応。

駅を待ち合わせ場所として、プラカードにより集合。

自由時間には、川遊びをする者、BBQの準備を手伝う者、体育館で遊ぶ者、体を使ったアートのワークショップ（龍谷大、美大などから3名が来てくれていた）に参加する者、校舎探検（蚕見学）をする者など。

BBQは京都BBQ協会の会長森本隆様の指導により、地元野菜（かわい株式会社提供）を使った料理、肉、やきとり、焼きそばなどを楽しんだ。

その後、花火や体育館での遊びを楽しんだ後、20時解散。

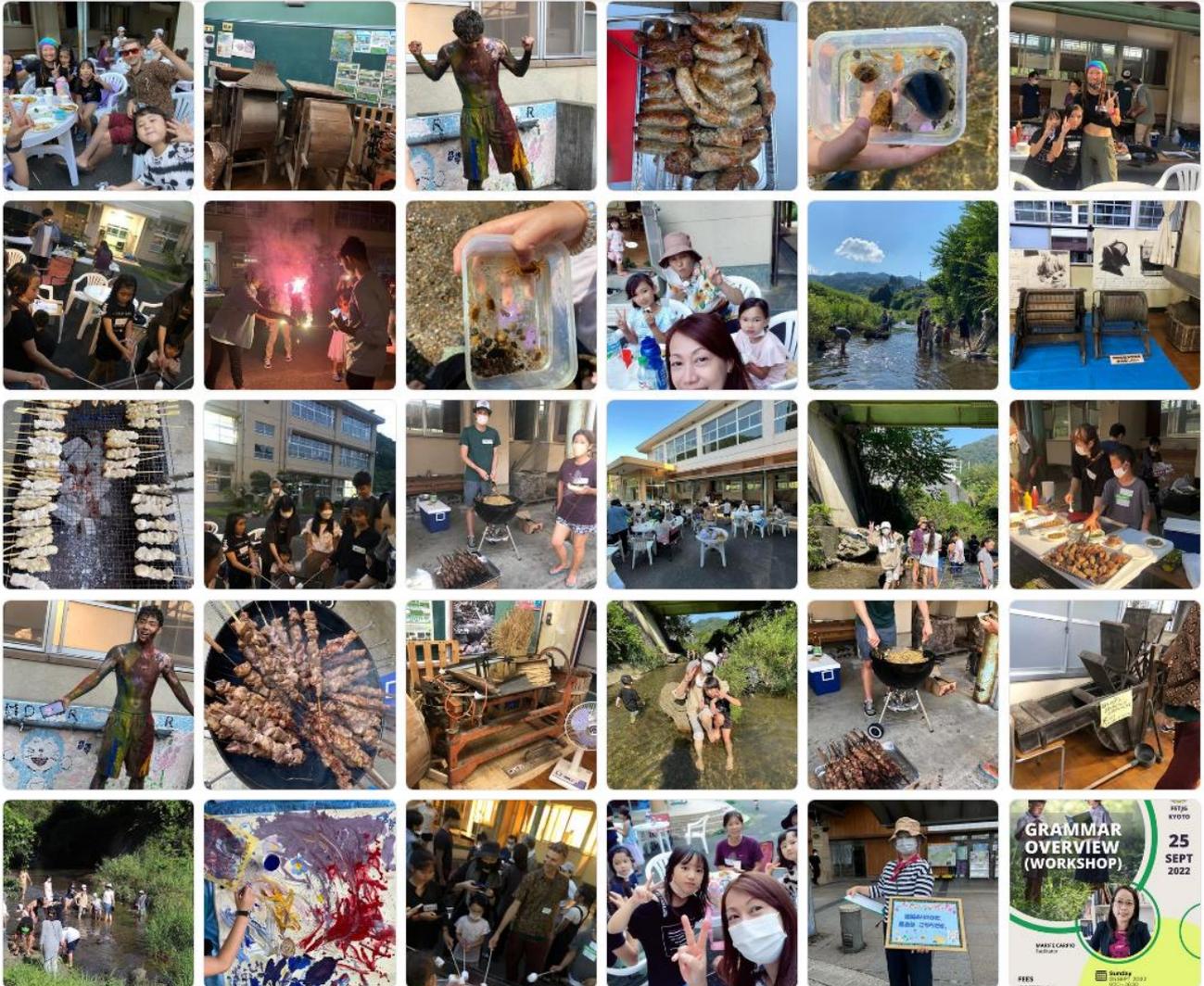
振り返り：

- 全体的にはとても好評で、来年もぜひという声が多かった。
- 体育館で、雲梯から落ちてけがをした子どもに対しては、イベント保険をかけていたのでそれで対応。翌日まで様子を見ることにしたが、腫れもひき、大丈夫だということでひと安心。
- 後片付けについては、全員でやっていただく予定だったが、言葉の壁、タイミング等が難しく、スタッフだけで対応することになった。（ここは大きな課題）
- 今回は参加料無料で行ったが、次回は参加費も必要という結論。参加者からも参加費は取らないのかという声多数。ただし、ひとり親家庭や留学生などには考慮する必要あり。

参加者の感想・様子等

- みんな楽しかったようで、バーベキューや体育館、川遊び、とそれぞれ「楽しかった」が違うのですが、皆大満足でした。

- 日本の家族は、交流が出来て英語習いたいとか、勉強がんばります！とかよい刺激になったようです。
- 英語を習い始めた小さな子供たちが、外国人の人たちに料理を運んで、英語で話しかけている様子がとても微笑ましかったです。



<スタッフのスキルアップ>

○傾聴講座・対人援助講座と実践報告

基礎編

黒江 義昭さま（臨床心理士）

- ① 上手な話の聴き方1
- ② 上手な話の聴き方2

傾聴の基礎を学ぶと共に、福知山市内でスクールカウンセリング等として活動されている中で、子どもたちの抱える悩みと聴き出すためにどうされているか、外国ルーツの子どもたちの抱える悩みと解決方法等を教えていただく。

基礎～実践編

一般社団法人なごみ 大塚 茜さま

- ① なぜ聴くか
- ② なにを聴くか
- ③ どのように聴くか
- ④ 苦しみとは何か～スピリチュアルペインとコーピングについて～
- ⑤ 現象学的還元
- ⑥ 関係性について

1. 理論的に苦しみを和らげる援助のアプローチを学ぶ。
 - ① 苦しみのサインをキャッチし ② 言語化し（反復と沈黙） ③ 援助を設計（ケアなのかキュアなのか） ④ 援助の実践その過程で「現象学的還元」の企画を実施。
2. 講師の現場での実体験をもとに、傾聴、対人援助を学び、外国人・外国ルーツの人（子供）への支援に当てはめ、アドバイスをもとにアセスメントシートに落とし込んでいく。

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （非常勤）…8名 （ボランティア）…5名

<連携> 福知山市社会福祉協議会、母子寡婦福祉会、民生児童委員、ふくちやまCAP、NPO法人チャリティ・サンタ

4 事業の成果と課題

<成果>

- 大学生など若い人たちや様々な職業の人たちがボランティアや非常勤、参加者として様々な場面で支援してくれるようになったこと
- フードバンクを活用することで、より多くの家庭を見守り、課題を共有できたこと
- それぞれの課題に対して、組織で検討する体制を作れたこと
- 福知山市社会福祉協議会の会場を交流会等でお借りすることが出来るようになったこと

<課題>

傾聴(対人援助)講座
～生活課題の解決のための援助技術～
全3回コースで行います
9/7 (水) 第1回：～基礎編～
9/13 (火) 第2回：～実践編～
9/21 (水) 第3回：～実践編II～
時間：いずれも13：30～15：30
会場：7日はたんたんスペース
13日と21日は福知山市総合福祉会館
定員：10名
講師：大塚 茜さま
1978年生まれ、佐賀県出身。保育士・精神保健福祉士・浄土真宗本願寺派僧侶。2009年認可外保育園を立ち上げ、2011年、東日本大震災の発災後、復興活動の担当となり、宮城県石巻市の子育て支援活動と同時に、原発事故からの避難者の相談活動を開始。2013年9月NPO法人和（なごみ）を設立。2020年一般社団法人なごみとして独立し、県外避難者の生活相談のほか、10年間の知見を活かし、地域の困りごとを抱えた方々への支援を展開中。

※申し込みは下記のページのフォームからお願いします
<http://kyoto-tantan.net/info/keicyou2/>

主催：特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク
京都府福知山市昭和町77 谷本ビル1階
電話・FAX 0773-45-3507
HP：http://kyoto-tantan.net
<https://www.facebook.com/kyototantan/>

NPO法人京都丹波・丹後ネットワーク
9月1日 - 9
傾聴講座(対人援助)を開きます
全3回実施致します(1回でも参加できます)
第1回 9月7日(水) 13:30～15:30 たんたんスペース
第2回 9月13日(火) 13:30～15:30 福知山市総合福祉会館
第3回 9月21日(水) 13:30～15:30 福知山市総合福祉会館...もっと見る

○外国人が支援してもらいたい場面は国や個人によっても違うため、誰にどのようなサポートが必要かを見極める必要がある

○市民への外国人支援についての理解⇒情報公開等をさらに進めていく必要あり

○関係機関等との連携の強化と継続するための資金作り⇒福知山市との連携等について協議中

○スタッフのスキルアップ⇒次年度に傾聴講座や多言語文化講座等を開催予定

<写真>

		
<p>デイキャンプ (川遊び)</p>	<p>デイキャンプ (BBQ)</p>	<p>デイキャンプ (花火)</p>
		
<p>つぎの里で BBQ</p>	<p>つぎの里で BBQ</p>	<p>ワールドクリスマス 子どもたちのダンス</p>
		
<p>ワールドクリスマス ゲーム</p>	<p>ワールドクリスマス 各国のクリスマス料理</p>	<p>ワールドクリスマス 椅子取りゲーム</p>



ひな祭り



ひな祭り



ひな祭り (手毬寿司)



クリスマス会の記事掲載



スポーツ交流記事掲載



ワールドクリスマス (チラシ)



ひな祭り (チラシ)



スポーツ交流 (チラシ)



デイキャンプ (チラシ)

居場所づくり事業

業名：子どものためのブックパントリー及び絵本のある場づくり事業

予算（助成額）： 1,000,000 円

受託期間： 2022年4月～2023年3月

1 事業の趣旨

<事業の背景>

外国につながる子どもたちやひとり親世帯等を対象としたフードバンク事業等を実施する中で、それぞれの家庭が抱える課題は経済的なものだけでなく、孤立・孤独などに陥り、誰も頼る人がいない、繋がれない、繋がるのが怖いなど心の居場所（拠り所）がないことが大きいことがわかってきた。

<目的>

子どもが出自や育った環境等に影響されることなく、本を読み、勉強する機会を提供し、未来への希望や自分自身の可能性に夢を持つことが出来るようにすることを目的に、それぞれが欲しいと思う本（参考書）を届ける事業と絵本や童話のある部屋で親子で過ごせる場を作る。

傍に誰かがいて、話そうと思えば聞いてくれる、相談できる、ただそこにいるだけでもいい、そんな場ときっかけづくりが必要であると感じた。心の居場所づくりのきっかけを、まずは絵本というツールにより実現し、次のステップに繋げることが重要であると感じている。

2 事業の概要等

<事業内容>

対象：外国籍や外国にルーツを持つ子どものいる家庭・特別な事情で貧困の状況にある子どものいる家庭、発達障害などの課題を持つ子供や、育児などにより孤独を感じている親のいる家庭、

実施方法：本を買う余裕のない家庭の子どもに好きな本を、勉強する意欲はあるが参考書が買えない子どもに参考書を届け、希望があれば学習支援等を実施。さらに、絵本や童話を揃え、読み聞かせや子育て相談などを実施しながら、親子で過ごしてもらおう場を作る。

その中で、親や子の抱える課題に寄り添い、絵本というツールを使ってそれぞれの家庭にあった育児を一緒に作り上げる。

●場の提供：D1カフェ…地域の人たちや子どもたちが気軽に立ち寄れるカフェを経営。アレルギーのある子どもたちでも食べられるおやつや弁当なども作っている。

●絵本の読み聞かせ等委託：ふくちやまCAP

①【絵本の選定】

②【子どもが安心して過ごせる場づくり】

③【親子向けの企画（4回実施・広報を含む）】の提案・実施

●親子向け企画4回の実施報告

①【絵本の選定】

「親子の絵本のある場づくり事業」の会場となるD1カフェ内に設置する絵本の選定をする。
保育・読み聞かせ・子育ての経験から、子どもたち・保護者の心の栄養となる絵本の選定を薦めた。
(成果)

絵本選定の話し合いを三者（京都丹波丹後ネットワーク・D1カフェ・ふくちやまCAP）で持ち、それぞれの意向に寄り添った絵本も取り入れることにより、偏りのないジャンルの絵本を選定することが出来た。話し合う機会を持つことで積極的な場づくりへの協力を得ることができた。

(課題)

絵本のバリエーションを増やすために、助成金でそろえることが出来る範囲外の絵本も集めることにした。

②【子どもが安心して過ごせる場づくり】

- ・保護者と子どもが安心して過ごせる環境を作るために、子どもの転倒・接触などに備えてプレイマットや本棚を選び、配置場所を考慮して設置をした。
- ・D1カフェの周囲は田畑や山々が見渡せる自然に恵まれており、絵本を読む静かな室内環境と、外での遊びを楽しむ環境が揃っている。
- ・高台にある店は道路とも距離があり、店周囲がテラスになっていることで、保護者の目がとどく範囲で子どもたちは外遊びができるようになっている。
- ・コロナ禍が長く続いており、広い景色のなかで過ごす時間が保護者にも子どもにも気分転換になる環境にある。→3回目までの企画は晴天の中で実施することができ、保護者向けの絵本の読み聞かせのレクチャーはテラスで行うことができた。
- ・D1カフェの運営に支障を起こさない使用方法を相談して、企画を実施した。

(成果)

・室内のスペースに合った設置ができたので、子どもたちはリラックスしてワークショップに参加することが出来た。

・自由な姿勢で参加ができ、異年齢の子どもたちが参加する場所として子どものストレスが少ない場所になった。

・絵本の読み聞かせという静かに集中する静的時間と、心と手を動かす創作の時間。走りまわる、探検をするというアクティブな遊びを体験できる動的活動の両面に活用できる場所として利用ができる。

(課題)

- ・室内は少人数（7、8人）に対応できるが、多人数（10人以上）に対応は難しい。
- ・企画をたてる上で、参加人数の制限することを意識するため、広報も制限することになった。（これまでイベント等に参加され、LINE、Facebook などつながりのある子育て世帯を中心に

行った)

- ・テラスの利用は、天候と気温に環境が左右されるため、室内に変更になった場合を考えて企画の内容をフレキシブルにしておく必要があった。
- ・12月は室内で親子参加できる企画を実施予定である。
- ・D1 カフェの場所が市街地から離れていること、場所が知られていないこと、合わせて広報する必要がある。

③ 【親子向けの絵本の読み聞かせ等イベント】

- ・4回を通して、絵本の読み聞かせなどを実施している方から絵本の読み聞かせを行っていただいた後、保護者は絵本のレクチャーを受け、子どもたちはワークショップに参加して、「子どもの権利」について学ぶ。創作活動をすることで自己肯定感が育まれる機会とする。(絵本のレクチャーは福知山市の学校読書ボランティアの方が、子どもにも保護者にも絵本の楽しさを伝えてくれた。)
- ・協力施設のD1カフェでの飲食をセットにすることで、D1カフェの利益にもなった。

●1回目 8月18日(木) 10~12時

「絵本の読み聞かせと絵本選びのレクチャー」&「CAP子ども向けプログラムのワークショップ」

(内容)

福知山市の学校読書ボランティアの方が子どもたちに読み聞かせを行った後、保護者に向けては絵本の選び方や読み聞かせのポイントについて、レクチャーしていただいた。

子どもたちは、CAP子ども向けプログラムのワークショップに参加。

お弁当代として1人500円。大人にはカフェ1杯がサービス。

※CAPプログラムとは、あらゆる暴力から子どもを守るための人権教育プログラムである。

詳しくは <http://www.fukuchiyama-cap.com/>

(成果)

- ・絵本の読み聞かせのコツを教えてもらって、「これから絵本を子どもと一緒に読む機会を増やしたい」「絵本には癒される、自分自身も絵本を読む時間を持ちたい。」などの声が聞かれた。
- ・子どもたちは帰りの車中でも、「安心・自信・自由」の大切な言葉を繰り返していた。CAPの劇を話題にして盛り上がっていたと保護者から報告があり、子どもたちが権利を知って楽しい時間を過ごせたことが分かった。
- ・友達を助ける役で劇に出てくれた子は、友だちの手をしっかりと握って力を与えようとしているのが伝わってきて、見ていた子どもたちも感動しているのが伝わってきた。

(課題)

- ・絵本の読み聞かせの場でじっとしていられない子どもや自分だけに読んでほしい子どもなど様々な子どもたちが参加してくれていたが、読み聞かせボランティアの方がうまくその子どもたちにも対応してくれ、読み聞かせといっても、その子その子によってやり方は違うし、見るだけや手に取るだけでも十分その役割は果たせているといったことを伝えていただいた。このように、読み聞かせの効果も方法も一人ひとり違うということ、たくさんの家庭、保護者、子供に伝え

る場を作っていきたい。

●2回目 9月29日（木）10時30分～12時

「絵本の読み聞かせとレクチャー」 & 「《なんでやねんすごろく》を使って《子どもの権利条約》を学ぶ」

（内容）

福知山市の学校読書ボランティアの方が子どもたちに読み聞かせを行った後、保護者に向けては絵本の選び方や読み聞かせのポイントについて、レクチャーしていただいた。

その後、子どもたちは、《なんでやねんすごろく》を使って、日常で子どもが疑問に感じている事柄から、子どもの権利との関連について遊びながら学んだ。

参加費 1人 500円。D1 カフェさんのパフェと、大人にはカフェ一杯がサービスされます。

※「なんでやねんすごろく」とは、子どもの権利条約を子どもたち自身が知るために、子どもたちが作成したすごろくゲームである。

（成果）

- まだ保護者の側がよい子どもさんの参加であったので、膝に抱かれて一緒に絵本の読み聞かせに参加した。読み聞かせボランティアの方の体験から「自分が子どもに絵本を読むときに、自分の気持ちがイヤなときは読まないようにしていました。子どもには伝わってしまいますから」「絵本は子どもと一緒に楽しい時間を過ごすための道具なんです。」「絵本はお母さんを救ってくれませうーいい子って、どんな子？」などのお話を伺い、子どもたちに絵本を読み聞かせる時の大人の気持ちにも応えてくれた。「一緒に楽しい時間を過ごしたいから、子どもたちも“これよんで”と、来てくれるんですね。」の感想があった。
- その後、パフェを頂きながら大人たちで《なんでやねんすごろく》を体験し、日頃の疑問に思う事や不満などについて出し合い、解決方法のシェアも兼ねておしゃべりタイムが持てた。

（課題）

- 参加される方が毎回何人になるか決まっていない、また一緒に参加する子どもさんの年齢が変わるため、企画した通りに実施できるとは限らないが、その都度参加される方に合わせて、内容を変更しながら楽しい絵本の時間を過ごせるように工夫をした。

●3回目 10月22日（土）10時30分～12時

「絵本の読み聞かせとレクチャー」 & 「《なんでやねんすごろく》を使って《子どもの権利条約》を学ぶ」

2回目と同じ企画を用意していたが、今回は子どもだけの参加が多いため子どもたちのための読み聞かせの時間に変更した。

（内容）

子どもたちは、手遊びや仕掛け絵本や歌で、絵本の読み聞かせを受けた。

パンケーキ付きで絵本の読み聞かせと、自由な外遊びの時間。

（成果）

- 朝の登校班の集合場所で保護者に対してお知らせしていたので、D1カフェの近所の子どもたちが集まってくれた。
- 読み聞かせの間は、初対面ではあるが参加児童同士でのやり取りも見られ、その後も一緒に遊ぶなど距離観が近くなっていた。
- 今回は男性保護者の参加が多く、お父さんとおじいさんは最初は戸惑っている様子だったが、子どもたちを見守るうち、保護者同士で情報交換などをされていた。
- 子どもたちは、カフェ提供のパンケーキを食べた後、秋空が気持ちよく天気が良いので、付近の空き地で虫探しや追いかっこ、探検をして自由に過ごした。

(課題)

- 大人の参加は、この時期の行事が重なり、小学生の子どもさんだけの参加になった家庭もあった。前もって事前調査をすることも大切。
- 「送ってきただけ」という保護者に対して、有効に過ごしていただくよう、無理に引っ張り込むのではなく自然と話に参加できるよう工夫したい。

● 4回目 12月10日(土) 10時~12時

「絵本でクリスマスを楽しもう！」&「クリスマスカードを作って、大切な人に送ろう！」&「みんなでクリスマスの歌を歌おう！」12月になり、京都北部の朝は霧が出やすく気温も上がらないため、部屋の中で子どもも大人も楽しく過ごす、クリスマス会のような企画を用意した。

(内容)

クリスマスを題材にした絵本は数多く、内容もさまざまである。子どもたちに読んでほしい絵本を選んでもらいながら、楽しい時間を大人も子どもも一緒に過ごす。子どもたちが大切に思っている人に送るクリスマスカードを作る。

参加費：材料費として500円。クリスマスカード作成用に用意した物(色画用紙・クラフト用画用紙・のり・はさみ・クラフトパンチ・封筒・デコレーション用シール・切り抜きオーナメント、カラー筆ペン、他)。D1カフェ特性クリスマスツリーのオーナメントにもなるクッキー詰め合わせ。
※大人はクッキーかカフェを選択できる。

(成果)

- SNSやHPでの広報、チラシを児童館に置いての広報、前回参加者へのお知らせ、登校班の集合場所で保護者に対してお知らせをした。4回目になる今回の参加者は、子どもも大人も、リピーターとこれまでに参加された方からの口コミ、おすすめで参加されていた。
- 今回は部屋の中で実施する企画。並べられたクリスマスの絵本は、表紙を見ているだけでも、クリスマスの楽しさが伝わった。
- 子どもたちが読んでほしい絵本をリクエストして読んでもらおうと、自分を大切にしてもらった感覚が生まれる。
- 絵本の前に立って、かぶりつきで聞いている子どもも、「後ろの子が見えるように座ってね」と言葉をかけられて静かに姿勢を低くしてくれる。どの子ども、みんなの楽しい時間を大事にしようとしているのが感じられた。

- カード作りの体験は、一緒にいなくても、大事な人に「大切だと思っている」気持ちが伝わるツール作りでもあり、普段とは違うコミュニケーションを体験してもらえた。
- 子どもたちは、カードに添えるペーパーツリーの色を選び、デコレーションをして、自分の感性で作る達成感があった。
- 友達同士で「これもいいやん！」「それええなあ」とお互いのカードをほめあう時間ができた。
- 一緒に作ることで、知らない友達どうしても、自然と言葉のやり取りが生まれた。
- 子どもたちは普段遊んだことが無い友達とも楽しい時間を過ごすことで、異年齢にも顔見知りの関係ができた。地域の小学校で過ごす（あるいは進学する）子どもにとって、絵本を通して楽しい時間を過ごせた上級生・下級生との関係ができたことは、今後の学校・地域での安心にもつながった。
- 子どもたちと過ごす大人がいることで、親以外の大人と接し、親以外の大人と話をする体験が、子どもにとって顔見知りの大人を増やすことにもなり、地域での暮らしに安心を与えることになった。
- 読み聞かせ・カード作りをして、空腹に気付く子どもたちに、いいタイミングでホカホカのアメリカンドッグが提供された。朝の霧も晴れて、暖かい日差しのデッキに座り、仲よく頬張る姿が印象的でした。D1 カフェさんに感謝します。
- 全4回を通して天気に恵まれた。D1 カフェさんの店のコンセプトとオープンなロケーションの魅力に子どもも大人も親しんでいた。

(課題)

- クリスマス会でもあり、欲張って詰め込みすぎたため、時間配分がタイトになり、スタッフの負担が増えた。
- 歌の企画は時間が足りなくなり、また、子どもたちもおやつ後は外遊びに夢中になり実施できなかった。
- チラシは目にしているも直接参加の動機になったのは口コミであった。子育て中はゆっくり情報を精査する時間も無く、安心できる知り合いの実体験を含む口コミの情報の力が大きいと思われた。これは子どもたちにとっても同様。
- はじめて参加された保護者の方は「お友達から教えてもらって来ました。自分の子どもはとても絵本が好きです。こんな風に（外のデッキで読んでも、ソファに座って読んでもOKな）ゆっくり絵本を楽しめる場所とは知りませんでした。」と感想を寄せられた。また、子どもだけでなく、自分自身がストレスのない楽しい時間を過ごせているかが、再訪のカギにもなっている。
- 参加者数は、今回場所を室内としたためMaxの印象がある。
- 企画のうち、歌の時間が無くなってしまったが、カードを作りながら口ずさむ参加ができたように思う。あるいはおやつ時間にデッキで歌う事も出来たように振り返っている。練習中のギターの伴奏の音が心地よく、みんなの良く知っているクリスマスの歌は自然と口について出たのではないかと感じている。
- カード作りについては、当初、絵を描く予定だったが、子どもたちの年齢がバラバラであり、広く場所を取れない部屋では、汚してしまうことと、時間的な余裕が無くなる可能性が大きく、

変更する必要があった。

- 予想はしていたが、コロナの接触者が家族にあり参加できないかった方もおられる。冬になり、家族の病気や介護に時間が取られて参加できなかった方もおられる。今更ながら、コロナ・冬の企画の難しさを感じた。

(振り返り)

- 絵本の読み聞かせに参加してくれた家族がリピーターとなり、カフェの絵本コーナーを利用しに来てくれた。
⇒課題としては、毎週木曜日午前10時から午前11時30分まで「絵本のある場」を開催していますとお知らせしているが、ずっとオープンしている店ではないため、行ってみようと思った時には毎回の確認が必要になる。
- 参加してくれた家庭の中にはたとえば発達障害の子どもや親が外国人であるため日本語で書かれた絵本を読むことが出来ないなどの課題を抱えるところも多く、そのような家庭、子どもたちにも寄り添える絵本の活用を教えていただくことが出来た。
- クリスマスイベントとして行ったクリスマスカード作りは親子が夢中になってそれぞれ個性のあるカードを作ってくれた。また、年上の子が小さい子に作り方を教えたり発達障害のある子をフォローしたりするなど、子どもたち同士で協力し合うかたちが自然に生まれたことがとてもよかった。
- 一方通行のイベントだけでなく、子どもたちや保護者を巻き込んで行うイベントは、効果的であると思った。
- D1カフェは米粉でつくったピザやベーグルなどグルテンフリーのスイーツ等のカフェタイムが売りになっており、アレルギー対策ができるお店の利用を考えている親にも、利用の可能性があるとされる。
- 地元には読み聞かせの活動をされている方が多くいらっしゃるので、今回のような企画でお誘いして活動の場を広げていただき、絵本に触れる機会が、さらに増えることを期待したい。

		
読み聞かせ	読み聞かせ	クリスマスの絵本
		
ワークショップ	ワークショップ	おやつタイム

防災支援・避難所設営（運営）

事業名：①ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業（真如苑）②ダイバーシティを意識した災害時における避難所設営（共同募金）

予算（助成額）：①400,000円（前年度使用額：266,622円）②70,000円

受託期間：①2021年8月～2022年7月（前年度より継続）②2022年4月～2023年3月

1 事業の趣旨

<事業の背景>

福知山は水害の多い地域であり、毎年のように大規模な水害に見舞われる。その中で、これまでNPOや自治会に対するBCP策定の支援や研修・訓練の支援、外国人への防災研修等を実施してきた。この度、当NPOの理事の一人が現在廃校の活用に取り組んでいること、及び、理事長が京都大学防災研究所に所属することもあり、南海トラフ等を含む大災害を想定し、廃校を活用した避難所の設営モデルを地域と共に構築したいと思い、申請に至った。

2 事業の概要等

<事業内容>

1. 事前勉強会

日時：5月19日（木）13:00～15:30

場所：旧川合小学校

参加者：防災士 福知山公立大学 かわい株式会社（28名）

概要：防災士、危機管理室等の防災の専門の方のアドバイスやレクチャーを受けながら、①旧川合小学校のゾーニング ②役割の設定（避難者役・支援者役）③高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、日本語が理解しにくい外国人、ペット等への対応等について検討

世代・性別・状況等の違う人たちによるグループワークにより様々な意見を取り入れる

他者を意識した避難所設営を学ぶ

2. 避難所設営訓練&実証実験

日時：6月12日（日）10:00～16:00

場所：旧川合小学校

参加者：防災士3名 福知山公立大学19名 福知山市2名 京都大学防災研究所 1名（牧先生）

企業（凸版印刷）3名 たんたんスタッフ3名 ポリテクカレッジ2名 かわい株式会社1名 住民6名 キャンプ参加者上田さん及び数名（防災BBQ）両丹日日記者1名 京都府 中島さん（約40名）

<趣旨>

今後増えることが予想される廃校を活用し、避難所設営の訓練と様々な実証実験を行うことにより、大地震の発生による京阪神からの避難者も想定した、長期避難に耐えうる環境を整え、ダイバーシティとインクルージョンを意識した避難所モデルを構築する。

※ダイバーシティ&インクルージョンとは、性別、年齢、障がい、国籍などの外面の属性や、ライフスタイル、職歴、価値観などの内面の属性にかかわらず、それぞれの個を尊重し、認め合い、良いところを活かすこと

<避難所設営実証実験概要>

1. 趣旨及び目的等の説明
2. オリエンテーション
 - ①被災想定の説明 ②参加者の役割分担・グループ分け ③役割カード配布・役割に応じた小道具の配布（車椅子・乳児・ペット）
3. 受付⇒各ゾーンまで 避難役と誘導役による検証又はグループによる検証
 - 実際に受付が機能するかを実験（名簿への記入、ゾーンへの分別、誘導、ニーズ把握、スマホによる入力等）
 - 各グループに一人以上、防災士又は防災の専門家を配置、大学生もそれぞれのグループに分かれるようグループ分け
 - ※各ゾーンに行ったら誘導者はトイレ・食事の場所、情報の収集方法、ルールの説明、ニーズ把握と入力等を実施）
 - ※一般避難者等（体育館組は防災BBQの手伝いとテーブルセッティング、段ボールベッドの組み立て、テントの組み立てなど）
4. 3と並行して、体育館内の設営訓練と防災BBQ準備
 - 段ボールベッド、テント等の体験（森下室長指導）
 - ※体育館の中でのゾーニング・トイレ・着替えの場所などへの配慮、犯罪防止
 - ※物資の配布（必要物資の把握、保管場所の確認、配布方法の確認）
 - 段ボールベッド、テント体験
5. 振り返り
 - グループ発表（1グループ5分程度 5グループ）
 - 防災士前川様よりアドバイス
 - 福知山市危機管理室森下室長による講評
 - 総評（牧理事長）
6. 炊き出し（防災BBQ）
 - 避難所設営訓練と同時に避難者の詳細をスマホから入力し、データ化する実験も実施
 - また、企業さま（凸版印刷）の実験の場としても活用いただく

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （ボランティア）…5名

4 事業の成果と課題

<成果・効果>

行政職員の方数名が参加していただけたことは、行政との連携・協働の第一歩となった。福知山市危機管理室の室長や防災士、京都大学防災研究所（牧理事長）など防災の専門家と共に実験が行えたことにより、防災に必要な視点が明確になり、実際に旧川合小学校という場でシミュレーション出来たことが大きい。

さらに、福知山公立大学の学生等の参加もあり、今後の防災体制を作っていくうえで、大きな役割を果たせたと思う。

また、併せて実施した避難者情報のスマホによる入力は、グーグルを活用することによって、容易にデータ化することが確認できた。

<課題と今後に向けて>

課題としては、設営のモデルにするには旧川合小学校の立地上、交通の便などの観点から難しいということ。しかし、今後廃校が増加していく中で、へき地にある小学校だからこそ住民避難の場として活用できるのではないかと考え、広域避難場所としての活用と共に、独居の高齢者等が安心して過ごせるための小規模の避難場所として活用できる方法も模索していきたい。

<写真等>

<p>両丹の記事</p>	<p>かわい株式会社代表による旧川合小学校活用への想い</p>	<p>防災士によるレクチャー</p>
<p>公立大学生による発表</p>	<p>テント設営</p>	<p>揺れている際の姿勢体験</p>

コロナ対策給付金関連

給付金等制度の活用（総額：1,045,434円）

<経済産業省>

事業復活支援金…895,434円

<福知山市>

福知山市中小事業者物価高騰等緊急支援金…150,000円

中期ビジョン等の策定

中期ビジョン等の策定にあたって

<趣旨>

コロナ禍、コロナ後を見据えた活動を有効なものにするためには、中期ビジョンを策定し、中長期経営計画及び単年度計画に活かしていくことが必要である。

アフターコロナにおける「ニューノーマル」を当NPOの活動に対して考えてみたとき、次のような変化が考えられる。

- ①人とのつながり方の変化
- ②衛生・健康等への意識の高まり
- ③デジタルとリアルの位置づけの変化
- ④活動のオンライン化・ハイブリッド化
- ⑤安心・安全に対するニーズの高まり
- ⑥地球規模で考えたときの環境等
- ⑦貧困層への支援のあり方の変化

そこで、中期ビジョン・中期計画・単年度事業計画を策定する方法として、改めて5年先の当NPOが目指すべき未来を描き、社会が解決を求める課題を想定して、そこから戦略を導き出す「バックキャスト」の手法により、①現状の分析 ②事業アイデアの発散 ③中期ビジョンの言語化 ④事業アイデアの具体化 ⑤中期経営計画・事業計画の策定（落とし込み）という流れにより実施した。

中期ビジョン：つなぐ よりそう ささえあう

中間支援的役割としての「繋ぐ」、直接支援としての「寄り添う」、そして互いに協力し「支え合う」社会の実現 をテーマに、組織や人を繋げ、繋がり、人の心に寄り添う活動を実施し、誰もが暮らしやすい社会を実現

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金（前年度）

正会員（1口 1,000円）20名 10,000円

寄附 3,110,629円（うち 近畿労働金庫笑顔プラスによる寄附 214,604円 以前共にたんたんで働いていた方 200,000円 など多様な方からご寄附をいただいた）



会議の開催

<理事会の開催>

第一回

1 日時 令和4年12月21日 午後6時00分

2 場所 福知山市昭和町77番地 谷本ビル1階

3 出席者数 総理事数10人中 出席者 10人 監事2人中 出席者2人

出席者 開催場所参加（森田 洋行、足立 淳子、東家 零子、梅原 麗子）

- ・ ZOOM参加（牧 紀男、倉本 到、杉岡 秀紀、寒竹 聖一、土佐 祐司、森田浩三 加畑 満久 平尾 剛之）

4 審議事項

第1号議案 総会の議決した事項の執行に関する事項（今年度の経過報告と検討課題）

第2号議案 事業計画及び活動予算並びにその変更（今年度の活動予算変更と次年度の事業予定）

第3号議案 その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項（次年度以降の事務局のあり方及び事業の方向性等）

第二回

1 日時 令和5年3月30日 午後7時00分

2 場所 福知山市昭和町77番地 谷本ビル1階

3 出席者数 総理事数10人中 出席者 6人 監事2人中 出席者2人

出席者 開催場所参加（森田 洋行、足立 淳子、東家 零子）

- ・ ZOOM参加（寒竹 聖一、土佐 祐司、森田浩三 加畑 満久 平尾 剛之）

4 審議事項

第1号議案 事業計画及び活動予算並びにその変更（次年度事業計画）

第2号議案 総会の議決を要しない会務の執行等に関する事項（資金調達、方向性等）

第三回

1 日時 令和5年5月22日 午後7時00分

2 場所 福知山市昭和町77番地 谷本ビル1階

3 出席者数 総理事数10人中 出席者 9人 監事2人中 出席者2人

出席者 開催場所参加（森田 洋行、足立 淳子、東家 零子、梅原 麗子、加畑 満久）

- ・ ZOOM参加（牧 紀男、寒竹 聖一、土佐 祐司、森田浩三、杉岡 秀紀、平尾 剛之）

4 審議事項

(第1号議案) 2022年度事業報告 決算案について

(第2号議案) 2023年度事業計画 予算について

(第3号議案) その他事項

通常総会の開催

1 日 時 令和5年5月24日 午後7時00分

2 場 所 福知山市昭和町77番地 谷本ビル1階

3 出席者数 総会員数18人中 出席者 10人 監事2人中 出席者1人 書面議決2名
出席者 開催場所参加 (森田 洋行、足立 淳子、東家 零子、梅原 麗子、
杉岡 秀紀、森田 浩三、森田 奈都美、幹事 加畑 満久)

・ ZOOM参加 (牧 紀男、寒竹 聖一、倉本 到)

・ 書面議決 2名 (谷口 一郎、小野澤 光洋)

4 審議事項

第1号議案 2022年度事業報告 決算案について

第2号議案 2023年度事業計画 予算について



2023年度事務局体制

当 NPO の副理事長及び理事1名が通年勤務。臨時の業務等がある場合、理事2名が応援。また、必要あるときはアルバイトを雇用 (又は他の理事・会員によるボランティア)。